

いあいわい

「いあいわい」と言いますか、「早くも」と言いますか、一年の折り返し地点が過ぎました。今年も上半期に、変わらぬお付き合いを頂き、誠にありがとうございます。引き続き下半期も宜しくお願いします。

さて、毎年繰り返される「自動車内での子どもの熱中症事故」に気を付けなければならぬ季節です。

日本自動車連盟（JAF）によると、熱中症事故は、真夏の炎天下より、「少しくらいなら大丈夫だろう」「車内はそれほど高温にはならないだろう」という保護者の過信による比較的爽やかな日もある初夏のこの時期に発生する傾向があるそうです。

JAFが以前に行った最高気温23℃の状況下で車両を放置する実験で、ピーク時にダッシュボード付近の温度は約70℃、運転者の顔付近は約48℃、フロントガラス付近は約57℃に達したらしく、爽やかな陽気でも車内で寝ている幼児が10分程度の短時間で重症になったり、死に至る危険性があることを認識する必要があります。

子育て中のパパさん、ママさんにとっては、恐怖の夏休みに突入します。お出かけの機会も多いので、車にキーをかけたまま子どもを残して車を離れる事は、防犯上の危険性も指摘されていますので注意ですね。今月も宜しくお付き合いください。

※一部日刊自動車新聞コラムを引用



車の雑誌 NAVI CARS

職業柄、いろんなジャンルの車の雑誌を読みます。その中で、今月とても心に残るコラムがありました。NAVI CARSという雑誌の、VOICE from editor というコーナー。

5年ほど前に「クルマを買い替えようと思っているんだ」と父親から相談を受けた筆者は、父親が70歳でリタイヤし、少し元気をなくしていたように見えたので、ドイツ製のコンパクトカーを勧めたらしい。ところが勧めはしたもののたいしたフォローもせず、お父様は付き合いのある国産のディーラーからハッチバックの車を購入したそうです。それから5年後、父親は77歳になり、今度は「運転免許の更新をせず返納し、車を手放そうと思う」という相談を受けたそうです。そうなるって、お父様の人生最後のクルマ選びに（もっとしてあげられることがあったのじゃないか）と、後悔したという事が綴られていました。

誰しも次の一台が「人生最後の一台」・・・になるかもしれません。車の購入をお考えの親しい方には、一緒に試乗に行くなりして、車選びを一緒に楽しめるといいですね。かくいう私も、父親が「最後の車(?)」を検討中ですので、特に気になったコラムでした。



NAVI CARS の発売は、奇数月の26日、次号は7月26日発売です。車にこだわる個性あふれるゲストのクルマ感が読みどころ！ 定価は消費税込みの1,000円です



約一ヶ月にわたって繰り広げられたワールドカップ、この通信がお手元に届くころには世界の王者が決定していますね。さて、日本が初戦2-1で逆転負けを喫してしまったコートジボワール戦、後半62分から投入されたティエ・ドログバ選手、36歳。コートジボワールでは、大統領よりも力があり、国の平和を守ることにかけては「フランス軍よりも国連平和維持軍よりも実績があり、アメリカ「タイム誌」の「世界で最も影響力のある100人」に選ばれているのだとか。

コートジボワールでは、2002年権力争いが勃発し、政府派の南部（キリスト教）と、反政府派の北部（イスラム教）に分裂、泥沼の内戦が続いていたらしい。2005年10月、W杯予選で、06年ドイツ大会の本大会進出を決めた試合の後、ドログバがチーム全員と一緒に生中継のTVカメラに向かってひざまづき、「北部出身の、南部の、中部の、そして西部の皆さん、コートジボワールは一つです。武器を置いて心をひとつにしよう」と訴え、一週間で、内戦は収束したそうです。

ゴールを決めた時のハートのポーズは、戦争や内戦の止まない世界の紛争地域に向けてのメッセージなのかもしれませんね。



宇宙葬

アメリカのスペース・エリジウムという会社が取り扱っている商品は「宇宙葬」。

故人の遺灰を宇宙に打ち上げてくれるんだそうです。遺族や友人は、専用のスマートフォンアプリで、星々の間を駆け抜ける人工衛星の軌跡をたどることが出来るのだとか。死んだらお星さまになりたい人にぜひオススメ！

次の打ち上げの申し込み締め切りは7月31日、打ち上げ予定は10月で、フロリダから発射オーライ！だそうです。

ペコちゃんがコラボ

お菓子の不二家がサンリオとコラボし、ペコちゃん×ハローキティのコラボ商品が7月15日からお目見えするそうです。商品は、「ミルクアーソート」「ペコ&キティおたのしみ袋」「ミルクチョコレート」「カントリーマーム」など。

ミルクの包み紙には、ツインテールの髪型で、ペコちゃんのような舌だしメイクのキティちゃんや、ネコ耳をつけたペコちゃんも登場！！可愛いですねっ！！

昨年の、不二家と赤城乳業のコラボで、ペコちゃん×ガリガリ君の「Peko&GARI」に続く企画。

徳島でも、マンマローザとぶどう饅頭がコラボする商品ができるなど、互いに協力して話題を提供する企業の姿勢が嬉しいです！

ストレス

米求人情報サイトのキャリアキャスト・ドットコムが毎年行っている職業のストレステスト。評価は、肉体的な辛さや締切の有無、競争の激しさ、出張の頻度など十一のストレス要因ごとに200の職業を採点し、最もストレスの多い職業と、ストレスの少ない職業の上位10をそれぞれ発表しているそうです。

最もストレスの多い職業は

- 一・軍人（下士官兵）、二・将官、三・消防士、四・パイロット、五・イベントコーディネーター、六・広報部門の幹部、七・企業幹部、八・記者、九・公務員、十・タクシー運転手。

最もストレスの少ない職業は

- 一・聴覚訓練士、二・ヘアスタイリスト、三・宝石職人、四・大学教授、五・仕立て屋、六・栄養士、七・医療事務管理士、八・図書館員、九・マルチメディアアーティスト、十・機械工。

このリストを見る限りでは、アメリカでストレスが最も少なく、給与が高い職業は、聴覚訓練士で、平均年収は、6万9720ドルだったそうです。毎日一番長く身を置く職場、できればストレスが少ない方がいいですね。

ロボットカー「en:Autonomous car」

「自動運転車」

俄かに現実味を帯びてきた運転手がいなくても走行する「自動運転車」別名「ロボット・カー」。レーダー、GPS、カメラで周囲の状況を確認してくれるので、ハンドルもアクセルも、ブレーキペダルもなし。目的地を入力し、「運転」ボタンを押すだけで行きたいところまで運んでくれる・・・そんな現実が近づいているようです。

気になるのは、もし、事故を起こした場合、誰が損害を賠償することになるのか。ロボットをめぐる法律問題に詳しい小林正啓弁護士のネット上での答えは？

自動車損害賠償法は、ドライバーのいない自動車を想定していませんから、そもそも完全自立運転自動車が起こした事故には適用されませんので、人身事故が起きた場合、ドライバーではなく、自動車メーカーの責任を問う事になるのだそうです。

しかし、事故率は大幅に減ると予測されているそうで、やっぱ、脱法ハーブ事故に、低血糖による事故、操作間違いなど、人が起因する事故があまりにも多いので、運転不適格者で車が必要な場合の選択が増えるのは、他の人の命を守るために必要かもしれませんね。